

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



|      |               |     |       |                       |           |
|------|---------------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | TUNDORA SOLID | 投球者 | 徳江 和則 | センター                  | 平和島スターボウル |
| RG   | 2.570         | △RG | 0.029 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール |           |

**テストボール：TUNDORA SOLID**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

**比較対照ボール：ULTRA HEAT**

フレアーの幅  インチ

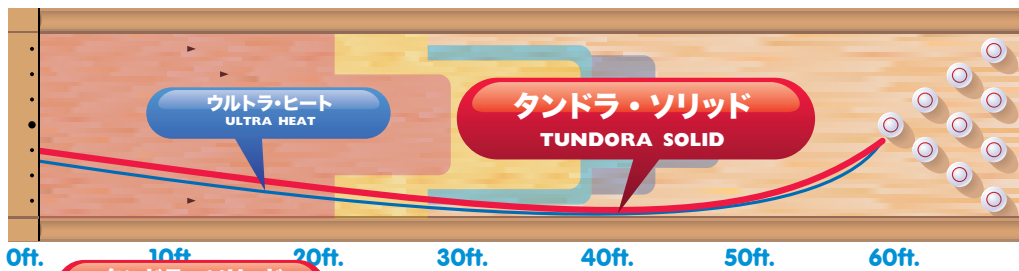
PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

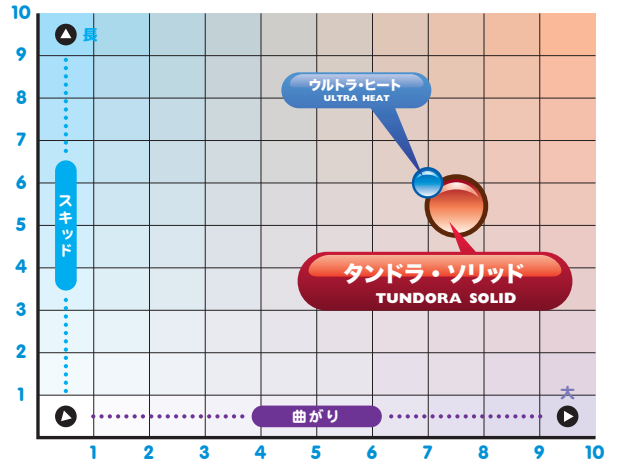
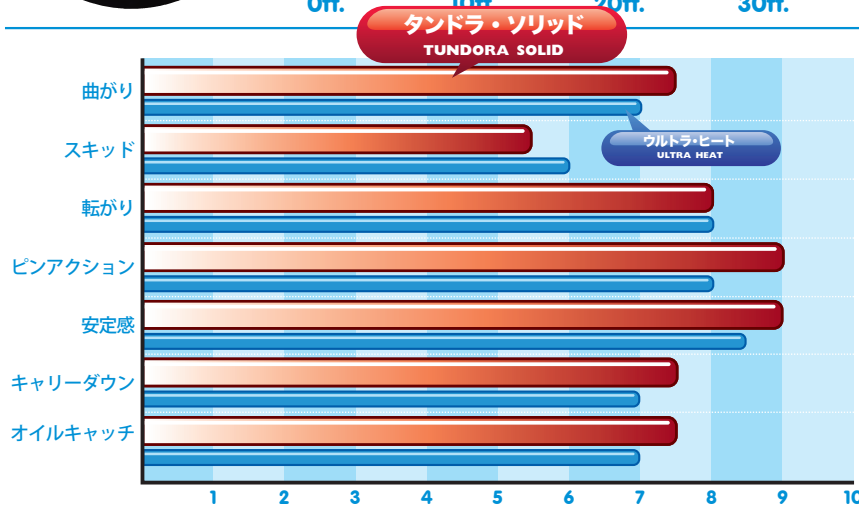
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

ボウリング競技において、レーン攻略は切っても切り離せない非常に重要な要素です。競技会ではPBAのアニマルパターンがトーナメントコンディションで採用されるにつれ、ボウラーは技術もさることながら、対応すべくボールも用意するという光景が以前にもまして多くなってきています。フランチャイズのコンディションでは一見目の目をみることがないボールの種類でもアニマルパターンでは一投目から使用する機会も増え、ボウラーはあるゆる状況も念頭におきボールを取り揃えておく必要がある時代になっているかもしれません。このTUNDORA Solidもミディアムからライトオイル領域のボールでありながら3000アブラロン仕上げのSolid素材。コンディションが遅くなってから使用する方が多いPearl系の走るボールとは逆行するような性能のボールをなぜ必要とされるのか。スポーツコンディションの普及が進むことで、ボウラーは今までよりもアジャスティングの可能性を広げた知識を持たなければなりません。そのためのTUNDORA Solidであると思います。ミディアム系のウルトラヒートと比較投球してみると、フランチャイズのコンディションでは走り感と先での動きのメリハリのあるウルトラヒートが明らかにポケットをついたときの強さも感じます。しかしショートやフラット気味のコンディションになると先での動きがかえって補正が働くのではなく、暴れる原因になります。その時にTUNDORA Solidを投球すると滑らかな動きが過剰に動きすぎる訳でもなく、常にコントロールできる曲がり度でポケットをつくことができます。フランチャイズではポケット付近にボールを集めることはさほど難しくなくても、スポーティーなコンディションはとにかくポケット付近にボールを集めることが難しく感じます。コンディションがタフに感じる時ほど挙動が少なく、コントロールに長けているボールを持つことが重要になった時、このTUNDORA Solidが非常に良い動きをするでしょう。

### 特記事項

派手さを生み出さない、絶対的なコントロール性に着目したスポーティーなコンディションにマッチするスペシャルさ。ボールに動かされるのではなく、しっかりとコントロールできるボールです。